

アメリカの創価学会

SGIにおける供給と需要の問題 (二)

デヴィッド・マハチエク
栗原淑江 訳

私は、今回の調査研究を行うことになったとき、とてもわくわくしたのですが、その理由は二つあります。第一に、この調査は、一つの新宗教運動の、アメリカ全体のメンバーのデータを無作為抽出によって得ることができ、まれな機会であったということです。第二に、おおかたの新宗教運動とは異なって、組織的安定を達成した新宗教運動のデータを得る機会だったということです。すなわち、一つの新宗教の生成発展に影響を与えた諸要因を検討できる機会であったわけです。

アメリカの創価学会の歴史は、「サクセス・ストーリー (成功物語)」といえましょう。一般の新宗教運動に比べてください。

それに対して、国際クリシュナ意識協会 (ISKCON) の現在の会員数は、活動家が約三、〇〇〇人と見積もられています。また、統一教会の活動家は、五、〇〇〇人以下と見積もられています。両教団は、近年、会員を減らしてきているのです。

アメリカSGIは、別の形でも成功をおさめています。すなわち、大多数の新宗教運動が達成できなかった「合法性」を獲得することができたのです。アメリカSGIは、アメリカでの歴史において、取るに足らない事件があったことや、非常に少数の不満分子が脱会したことを別とすれば、反カルト運動からはおおむね見過ごされてきました。日本では、主だった新聞・雑誌が創価学会をしばしば取り沙汰しましたが、アメリカではあまり取り上げられなかったのです。取り上げられることがあったとしても、あくまでローカル・ニュースとしてで、たとえば地元の公園を清掃したとか、公開展示会を開催したといったものでした。

アメリカSGI発展の途上には、たしかに大変なこ

おいては、突如として発展しながらも、突如として衰退するという状況が数多く見られました。一方、アメリカSGIは、発展と衰退のサイクルを経験してきましたが、長期にわたる発展が、長期にわたる衰退より勝っていたのです。

私たちは、学会出版物を予約購読している人の数に基づき、また、今回の調査への回答者が示す世帯当たりの平均人数に基づいて、アメリカにおける活動家は約三六、〇〇〇人で、現在も増加しつつあると見積もっています。私たちのデータには、名目的なメンバー、活動的ではないメンバーや、入会したての周辺のメンバーの状況はさほど反映されていないことに注意し

ともありましたが、全体としては成功をおさめてきたといえます。私たちの研究の主な目的は、同時期にアメリカに登場した他の新宗教と関連づけながら、アメリカSGIの成功について説明することでした。

現今の調査研究においては、宗教団体の成功を左右するものとして、次の三つの主要な要因が示されています。すなわち、①その社会環境が、諸宗教の競合に対して寛大である度合い、②その教団自体が、自らのメッセージを伝えるにあたって行う決断と活動(マーケティング戦略)、③そのメッセージが、その社会の人々にとって魅力的である度合い、です。私たちは、これら三つの要因すべてが、アメリカにおける創価学会の発展にとって好都合であったことを見出しました。

アメリカの社会環境は、二〇世紀半ばには、諸宗教の競合、とくにアジア起源の諸宗教の競合に対して寛容になりつつありました。新しい移民法が、アジア諸国から多くの移民がアメリカに渡ることを容易にしたのです。それによって、日本からの新たな移民が増大しただけではなく、移民の人口統計学的な特質も劇的

に変化しました。

たとえば、一九六五年以前には、日本からの移民は、アメリカ市民の妻または子どもに制限されていました。移民統計を見ると、一九六五年には、日本からの移民の九〇パーセントが、主婦か扶養家族である子どもでした。男児は別として、男性はまったくといってよいほど排除されていたのです。

ところが、一九七五年までには、日本からの新しい移民に占める主婦と子どもの割合は三分の二に減少し、他方、専門職の人の割合は四パーセントから一五パーセントに増大しました。そのときまでには、日本の移民に占める男性の割合も、三分の一に増大しました。アメリカへの日本人移民に、このように新しい人口統計学的特質が見られるようになったのですが、このことは、アメリカに多くの仏教者が存在するようになったことを意味するだけでなく、仏教者が、仏教者になる可能性のあるもつと多くの人に接近できるようになったことを意味しました。

さらに、かつての「ユダヤキリスト教的」宗教の

会が発展するためには、そのメッセージを伝える何らかの方法を見出さなければなりませんでした。

ここで、宗教教団が、会社と同じように製品を販売することを想像してみてください。もし、一連の文化的前提にもとづいてデザインされた製品を、まったく異なった文化を持つ社会に輸入しようとするならば、その製品を、新しい社会に適応するようにデザインし直す必要があるでしょう。

たとえば私が、ラップトップのコンピュータを、日本からアメリカに輸入したいとします。ところが、日本の市場のためにデザインされたコンピュータは、アメリカの私の家庭で使っている電源と接続することができません。そのコンピュータを使うためには、アダプターが必要でしょう。また、コンピュータとプリンターが、異なるプログラミング言語を用いているために連動できない場合には、どうなるでしょうか。コンピュータで用いるプログラミング言語を、プリンターのそれに翻訳する方法を見つけなければならぬでしょう。新しい環境に適応するための調整がで

コンセンサスが分裂したことにより、主流の諸教会の権威が衰退しつつありました。アルコールの販売および飲酒、労働とビジネスの関係、人種間の関係などの公衆道徳をめぐる、また聖書の適切な解釈をめぐる見解が分かれ、その結果、主流の諸教会の権威の衰退と、信仰における私的、個人的選択の強調が見られるようになったのです。

合衆国連邦最高裁判所すら、宗教的「非国教化」によって保護される「個人の良心」や、憲法の修正第一條の「宗教の自由な活動条項」を認識するようになりました。その結果、アメリカに宗教的多元主義という現実が存在することへの、文化的な覚醒が行われ、それは、宗教的多様性や競争にとつて、いっそう寛容な社会環境を整えることになったのです。

しかしながら、これらの諸要因は、同時期に同じ社会状況の下で登場した他の新宗教運動をしのいで、ひとり創価学会だけに恩恵を与えたわけではありません。新しいメンバーを獲得するために競争ができるということが、発展を保証するわけではないのです。創価学

会が発展するためには、そのメッセージを伝える何らかの方法を見出さなければなりませんでした。

ここで、宗教教団が、会社と同じように製品を販売することを想像してみてください。もし、一連の文化的前提にもとづいてデザインされた製品を、まったく異なった文化を持つ社会に輸入しようとするならば、その製品を、新しい社会に適応するようにデザインし直す必要があるでしょう。

たとえば私が、ラップトップのコンピュータを、日本からアメリカに輸入したいとします。ところが、日本の市場のためにデザインされたコンピュータは、アメリカの私の家庭で使っている電源と接続することができません。そのコンピュータを使うためには、アダプターが必要でしょう。また、コンピュータとプリンターが、異なるプログラミング言語を用いているために連動できない場合には、どうなるでしょうか。コンピュータで用いるプログラミング言語を、プリンターのそれに翻訳する方法を見つけなければならぬでしょう。新しい環境に適応するための調整がで

ないような製品は、当然のことながらあまり売れないのです。

同じ原理が、宗教にも適用できます。多くの新宗教が失敗した原因は、アメリカの社会環境に適応できなかったことでした。ところが、アメリカSGIは、アメリカの社会環境への適応に成功しました。英語で会合を行ったり、会合の際、床ではなく並べた椅子に座ったりというような、表面的な変更に加えて、あまり目立たない、「穏やかな販売法」というような布教法を採用したのです。その方法は、他の新宗教がしばしば攻撃的で目立ちすぎる布教を行っていたのと異なり、よりいっそうアメリカ人の趣味に合ったことでした。

さらに、アメリカSGIは、しだいに「会衆的」な、アメリカ社会で好まれる宗教組織のスタイルを採用するようになりました。その組織は、当該地域の活動については、地域のメンバーが大きな権限を持つというものです。全米組織も、ヒエラルキーがはっきりした日本的な組織から、アメリカの宗教によく見られる民主的なスタイルへと移行しました。

アメリカにおける新宗教の多くは、アメリカの社会制度と衝突するような実践をつづけましたが、創価学会はアメリカの諸制度に適応しました。その結果、いくつかの新宗教の実践が、その宗教を風変わりなものと感じさせ、ときにはアメリカの生活様式を脅かすすら思われたのに対して、創価学会は「合法的」であるという雰囲気をもし出しました。そのため、一般国民からの不当な憶測を避けることができ、また、アメリカの人々が日常生活を破壊することなく入会することが容易になったのです。

最後に、私たちが発見したことは、創価学会のような特質を持ち合わせた宗教を求めるアメリカ人の割合が増大しつつあることでした。最良のマーケティング戦略を立てても、誰もそれを欲しがらなければ、製品は売れないのは明らかです。では、アメリカで創価学会の仏教をもっとも「買収」そうなのは、どのような人々でしょうか。次にあげる三つの変数が、創価学会へのアメリカ人の改宗者を、周囲の人々から区別しています。

数が同じです。ところが、創価学会への改宗者は、貧困は社会システムの欠陥の結果であると考えられる傾向があると同時に、個々人は自分自身の努力でそれを克服することができるかと考えるのです。私たちは、こうしたパターンを、「ヒューマン・ポテンシャル」の見解と呼びました。

アメリカの宗教的な人々は、近代性に対しては、典型的に四つの立場のどれか一つをとります。「近代主義者」は、科学や理性を重んじて、宗教を迷信として否定します。「反近代主義者」は、宗教的信念に基づいて、科学や理性を否定する傾向があります。この二つの極端な立場の間には、科学的な方法を受け入れ、それらを宗教的な理解を深めるために用いる人々があります。ふつう彼らは、リベラルなプロテスタントの教派と結びついています。最後に、宗教的伝統の知恵を受け入れ、その知恵を社会的、科学的進歩のための指針として用いる人々がいます。この四番目の見解を、私たちは「超近代(トランス・モダン)」と呼びます。これは、創価学会へのアメリカ人の改宗者の宗教的志向をもつ

第一に、改宗者は、アメリカの一般国民よりも、概して「ポスト物質主義」の指数を高く示します。価値の優先順位について問われた際、改宗者たちは、自己表現、審美的美しさ、理念が金銭よりも大切なものと思われる社会への前進をより強調する傾向があります。彼らは、経済的發展、闘争、強固な国家防衛といったものは、さほど重視しません。また、結婚や家族もあまり重視せず、むしろ自身の満足を強調するのです。自身の満足を強調するということは、伝統的な性道德の規則の拒否や、より自由な態度にも転じます。

しかしながら、この場合、自身の満足の強調は、自己責任および、他者や環境に対する影響への責任観と結びついているのです。このような個人の自由と責任の感覚は、貧困に対する態度にもっともよくうかがうことができます。アメリカの一般国民においては、貧困は社会システムの構造的問題であると考えられる人、貧困は貧しい人の努力不足の結果であると考えられる人、そして、貧困はただ単に貧困であり、個人や社会全体がそれについて何かできるわけではないと考える人の

ともよく特徴づけるものです。

たとえば、「自然」は神聖なものであると考えるアメリカ SGI への改宗者の割合は、アメリカの一般国民に比べて三倍です。また、改宗者は、自分の文化以外の文化に関心を持つ傾向があります。たとえば、多くの改宗者が、他の文化についての本を読んだとか、外国旅行をしたことがあると答えています。また、改宗者は、社会の再構築や癒しは、肉体的にも精神的にも自分自身の癒しと関連していると考えられる傾向があります。彼らは、科学技術による進歩の可能性について楽観的ですが、進歩がつねに伝統的なやり方よりも優れているわけではないことも認識しています。

さらに彼らは、美術館での芸術鑑賞に大きな関心を表明し、音楽や劇場でのパフォーマンスに参加し、美術品や工芸品を創作するなど、文化の消費者としての傾向を強く持っています。また彼らは、テレビを見ることよりも、新聞を読んだり、ラジオを聴いたりすることに多くの時間を費やします。そして、一般国民と比べて、改宗者は、社会と未来の状態について、より

楽観的です。

以上をまとめて考えると、これらの価値観は、創価学会への改宗者がアメリカのサブカルチャーに属する人々であることを示唆しています。サブカルチャーは、勤勉、節約、自己否定といった伝統的なプロテスタントイズムの価値観を否定し、自身の満足、消費、人生の楽しみといった価値への意味づけと道徳的是認を提供するような宗教に需要を感じているのです。

諸宗教の競合に寛容な社会環境、アメリカの社会制度と合致する組織的实践、そして、アメリカの人々の間で増大する価値観と行動に対する意味づけおよび道徳的是認を提供するような宗教への需要の増大は、すべて、アメリカS・G・Iの発展と総合的な成功に寄与したのです。

※ 「トランス・モダン (trans modern)」という語の訳出にあたり、著者たちに確認したところ、この用語はあまり用いられないものであるけれども、ポスト・モダン (脱近代) と区別するためにあえて用いたもので、誤解されやすい用語であることは、十分承知

の上だということであった。Ems は、one あるいは above という意味合いだということなので、二、三の専門家の助言を得て、「近代を超える」「近代の上をいく」という意味で「超近代」と訳した。訳出にあたっては、著者たちの意図を生かすことを優先したことを汲んでいただければ幸いである。

(デヴィッド・マハチェク)

カリフォルニア大学サンタバーバラ校講師
(訳・くりはらとしえ／東洋哲学研究所研究員)

(本稿は二〇〇〇年四月二十四日に行われた、当研究所主催の特別公開講演会における講演内容に、加筆していただいたものです。)